

第1回検討部会における意見等への対応について（案）

No.	質疑内容	対応	資料
1	<p>【暑さ指数（WBGT）観測】</p> <p>熱中症の問題もあるので、気温、湿度、黒球温度を計測することで、熱中症指数である暑さ指数を計測しても良いと思う。<u>区内の30箇所</u>を計測すると、区民にとっても実感を伴った数値になると思う。</p> <p>今までは緩和策としてのヒートアイランド対策を進められていたが、今は<u>適応策</u>という対応が必要になってきているので、<u>体感温度を把握するための暑さ指数の調査を行うのは良い</u>と思う。</p>	<p>暑さ指数（WBGT）については「千代田区気候変動適応計画 2021」において、暑さ指数の測定等による熱中症等への注意喚起を行うことになっています。</p> <p>区内30箇所の暑さ指数観測は設置箇所や管理面に課題があるため、適当な箇所を選定し5箇所で実施したいと考えています。（資料4にて説明）</p>	<p>資料1－5 P.5 資料3 資料4</p>
2	<p>【民間等の公開データの活用】</p> <p><u>民間では様々な計測器などをネットワークで繋ぎウェブで公開</u>をしている。調査のために計測器を設置するだけでなく、我々が気付かないところでオープン化されているデータがあると思うので、<u>様々なデータを活用していければ良い</u>と思う。</p>	<p>調査のために計測器を設置するだけでなく、民間等の様々な公開データを活用しながら調査を進めていきます。</p>	<p>資料3</p>
3	<p>【地表面温度の測定】</p> <p>地表面温度については、最近、<u>ドローンを使った計測</u>などが増えているので、<u>手持ちカメラによる計測</u>だけでなく、<u>許可の問題</u>などもあるが、<u>できる範囲で使うことができた</u>らと思う。</p>	<p>千代田区は航空法、小型無人機等飛行禁止法により、ドローンの飛行が禁止されている飛行禁止空域となっているため、実施は難しいと考えています。</p>	<p>—</p>
4	<p>【DXの活用】</p> <p><u>DX（5Gアンテナやスマートポールなど）を活用して気温、湿度、風向などを調査</u>する方法もあると思う。</p>	<p>DXを活用した5Gアンテナやスマートポールなどの最新技術については、東京都が今年度から新宿区での実証事業を開始したところであり、今後の状況により対応していきます。</p>	<p>—</p>

No.	質疑内容	対応	資料
5	<p>【緑陰の大きさに関する効果検証】 木の成長によって緑化の効果が変わると思うので、<u>緑陰の大きさが変わることによる効果についても検証しても良いと思う。</u> 街路樹は行政、民間は緑化計画書でいつ木が植えられたのか把握できるため、実際の効果と比較し、逆算して検証すれば良いのではないかと。</p>	<p>区内の街路樹については成長に伴う緑陰に関してのデータや調査資料がないため、他の地域など関連する論文や研究結果等を活用しながら検証していきます。</p>	資料3
6	<p>【夜間のヒートアイランド対策に関する調査】 千代田区は昼夜間の人口の差が大きい状況で、昼間の調査や対策にかなり注力されていますが、<u>熱帯夜など区民の生活に影響する夜間へのヒートアイランド対策の課題を把握するための調査や対策なども行ってはどうか。</u></p>	<p>夜間のヒートアイランド現象の課題の把握については、実施予定の気温観測30箇所と暑さ指数観測5箇所の結果や関連する研究等を活用しながら対策などを検討していきます。</p>	資料3
7	<p>【ヒートアイランド現象の原因に関する調査】 ヒートアイランド現象の原因には、<u>人工被覆の変化や人工排熱、また建物の高層化による風通しの悪化の影響などがあると思う。対策を考える上でそれぞれの原因や比率を把握する調査が必要ではないか。</u></p>	<p>ヒートアイランド現象の原因とそれぞれの比率については、既存の公開データや国土交通省が公開している3D都市モデル「PLATEAU」等を活用し、千代田区の特徴を踏まえた原因を検証していきます。</p>	資料3
8	<p>【ヒートアイランド現象の影響に関する調査】 ヒートアイランド現象による影響に関する調査として、<u>温度上昇などの現象のみではなく、それによる影響も調査してはどうか。</u>例えば、<u>夏の区内の電力使用量による気温感応度や熱中症の件数の経年の推移など把握してはどうか。</u></p>	<p>熱中症の件数や区内の電力使用量などヒートアイランド現象に関わる数値は、可能な限り把握し、計画見直しを検討していきます。</p>	資料3
9	<p>【対策実施箇所を通る人への効果検証】 保水性舗装、高反射塗料、緑化などのヒートアイランド対策の効果を地表面温度で検証することは良いと思うが、<u>その場所を使う人がどのように感じるのか、空間を利用する人との温熱感の改善効果を検証することはできないか。</u></p>	<p>保水性舗装、高反射塗料、緑化、ドライ型ミストなど複合的なヒートアイランド対策を実施している適当な場所を選定し、アンケート調査等により効果を検証したいと考えています。</p>	資料3

No.	質疑内容	対応	資料
10	<p>【旧市街地と再開発エリアに関する効果検証】 <u>最近、都心部で再開発が進んでいて、新築建物についても環境性能が高くなっているため、旧市街地と再開発エリアの建物の環境対策がどのくらい進み、どのくらい効果があるのかというの</u><u>も検証できるのではないか。</u></p>	<p>再開発エリアでは公開空地や建物の環境性能が高くなっているため、旧市街地と比べてどのくらいヒートアイランド対策の効果があるのか検証をしていきます。</p>	資料3
11	<p>【エリア別の対策の検討】 <u>計測したデータをどうするのか、何に使うのかという部分が見えないと感じた。</u> <u>大丸有は公開空地も広いので緑が増えているが、公開空地が少ない神田はどう対策していくか、エリア別の対策や実施できることの限界を明確にしないと意味のある計画づくりにならないと感じた。</u></p>	<p>航空機による熱分布調査や区内30カ所の気温観測等のデータや千代田区内の地域特性等を踏まえて、エリア別のヒートアイランド対策を検討していきます。</p>	資料3
12	<p>【ヒートアイランド対策の優先度】 <u>現状の調査データを取ることで優先度を決めていくということが必要である。</u> <u>地域的に神田などについては建物の脱炭素化を図るなど、地域別の出口戦略とデータ収集の仮設を持ちながら、まちづくりとヒートアイランド対策で連携する必要があると思う。</u></p>	<p>今後の調査結果等を踏まえて、ヒートアイランド対策の優先度の選定やまちづくりとヒートアイランド対策の連携を検討していきます。</p>	資料3
13	<p>【日陰などの創出や情報発信の必要性】 <u>緑があることで日陰ができ心地いい空間を作ることで、ヒートアイランド対策に繋がっていると思う。</u> <u>木を植えるだけでなく、木や建物の日陰がある場所の情報を発信することも大切だと思う。</u></p>	<p>緑や日陰のある居心地の良い場所の創出や情報発信などにより、ヒートアイランド対策に繋がるよう検討していきます。</p>	資料3